



2011.1.5

No. 204

毎月5日発行 定価1部10円 (組合員の購読料は組合費に含む)  
1996年3月8日第三種郵便物許可

MONTHLY

# れんごう



<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 村田 仁

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろうビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

# 迎春

## 2011年 新年のご挨拶



日本労働組合総連合会  
北海道連合会  
会長 高柳 薫

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、連合北海道結成20周年の節目を迎えました。この間、組合員・家族・諸先輩をはじめ、多くの道民の皆さんのご協力により、今日の連合北海道に至っていることに感謝を申しあげます。引き続き、労働組合としての自らの役割を果たすと同時に、未組織労働者を含む労働者の代表としての組織・運動づくりと政策・制度要求などの取り組みを通じて、その社会的役割を果たしていきたいと決意しているところです。

さて、私たちを取り巻く経済・雇用の環境は、経済の低迷が20年続き、デフレから脱却できない中での、格差社会の深化・貧困層の増大などが、政府統計資料でも示されています。直近の情勢では、昨年末の月例経済報告で、景気の基調判断を「足踏み」状態とするなど、回復基調にありつつも減速の動きが出てきていることや雇用についても、失業率が高水準にあるなど厳しい状況との認識を示しています。

こうした中で、2011春季生活闘争を取り組むわけですが、長期停滞から脱却できない原因のひとつに、家計部門と企業部門間における付加価値の配分の歪みが挙げられます。労働組合とし

て、格差是正・公正配分を実現し、勤労者の生活に経済成長の恩恵が確実に伝わる経済社会を実現していかなければなりません。

同時に、2年目となる「すべての働く者の労働条件・処遇改善」や新規学卒者を含む厳しい雇用問題の前進に向け取り組みを強めなければなりません。

一昨年の歴史的な政権交代以降、この間の政権・与党を巡る状況と現状はご案内のとおりで、様々な改革が色褪せたものにされるような状況が、肝心な場面でしばしばマスコミ等に取沙汰される事態はたいへん残念に思います。しかし、歴史の逆流は誰しもが望んでいません。今後の国の進むべき道筋を定めるべく、しっかりと取り組んでほしいものだと期待を込めて申し上げたいと思います。

現政権にとってたいへん厳しい評価の中で行われる今春の統一自治体選挙について、道政においては、連合北海道が取り組んだ課題からの検証では、景気雇用・地域医療・道行財政改革・支庁改革など、厳しい評価とならざるをえない状況であり、したがって、私たちが期待する知事候補を擁立し、現状を『チェンジ』しなければならぬと思います。

知事選を頂点とする統一自治体選挙の勝利に向けて、全力をあげてたたかいを進めたいと思います。とりわけ本紙で対談した「木村俊昭さん」が北海道のニューリーダーとして活躍されるよう期待をしています。

最後に、組合員・家族・退職者の皆さん、道民の皆さんのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

### 謹んで新春のお慶びを申し上げます

日本労働組合総連合会 北海道連合会 (連合北海道)

会長 高柳 薫  
会長代 長 森 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男

副会長 長 森 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男  
副会長 長 山 上 澄 男

道民運動局長兼政治センター局長 中村 誠 吾  
特別執行委員 松 浦 俊 一  
会計監査一同 山 田 悦 子  
女性委員会委員長 上 島 早 苗  
女性委員会事務局長 牧 野 長 武  
青年委員会委員長 渡 辺 健 一  
北海道高齢・退職者団体連合会長

他 事務局常駐者一同

# 新春特別対談

# 「できない」を「できる!」に変える

## 北海道の再生・活性化に向けて



農林水産省大臣官房政策課企画官  
日本労働組合総連合会北海道連合会会長

〔司会〕連合北海道女性委員会事務局長 上島 早苗

木村 俊昭氏  
高柳 薫



「スーパー公務員」。人は、彼の並外れた行動力と実行力に驚嘆し、こう呼ぶ。年間5,000人と名刺交換。寸暇を惜しんで全国各地を講演や現地視察に飛び回る仕事ぶり。そんな超多忙な働き方のみならず、行く先々で人の心に種火をつけていく姿が「スーパー公務員」と呼ばれる所以だ。

元気がない北海道を活性化するために、地域活性化伝道師として活躍する木村俊昭さんに、地域づくり・まちおこしにかかる想いなどを語っていただいた。

### ■木村 俊昭氏 プロフィール ©木村俊昭ブログ <http://kimutoshi.jugem.jp/>

1960年生まれ。北海道出身。50歳。1984年小樽市入庁後、財政部、議事事務局、企画部、総務部、經濟部を経て、産業振興課長、企画政策室主幹(プロジェクト担当)。地域活性化の手腕を買われ、2006年4月から内閣官房・内閣府企画官として、地域再生策の策定・推進、「地域と大学との連携」、地域再生制度事後評価、政府広報活動のほか、地域再生に関する調査研究を担当。地方再生戦略では九州圏・沖縄県を担当。2009年4月から農林水産省大臣官房政策課企画官として地域の担い手育成、地域ビジネス創出など、主に農林水産業を中心とした「地域と大学との連携」などを担当。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演(2009年5月19日放送)。「スーパー公務員」として紹介され、地域活性化のプロとして広く知られることとなった。2010年3月には番組のDVD「公務員 木村俊昭の仕事」が発売された。主な著書は『『できない』を『できる!』に変える』(実務教育出版)

## 地元で汗を流す人たちへの思い

**【司会】上島**：本日は「できないをできる!に変える」と全国各地域を元気にしている農水省大臣官房政策課企画官の木村俊昭さんをお迎えして、高柳会長と対談していただくことになりました。木村さんは北海道のお生まれで、小・中・高校時代は会長と同じ遠軽町で過ごされたということですが、自己紹介も兼ねて遠軽町時代の思い出をお聞かせください。

**木村**：トムソーヤの冒険のようなことが好きでしたので、小学校時代には筏を作って湧別川に浮かべたり、木の上に家を作ったりして遊んでいました。友達と一緒に遠軽からサロマ湖まで自転車で砂利道を走ったこともありましたね。そのときの友達との約束事は、行きも帰りも全部自分のことは自分でやる、途中で落伍しても自力で帰るということでした。

遠軽中学に入ってから、生徒会活動を熱心にやらなきゃと思い始めたんです。自分たちで自主的にどういことができるだろうかと。高校に入っても生徒会活動をやったんですけど、このときは特に各部の部費をしっかりと査定させてもらいました。これは先輩方にひどく怒られました。「トイレにちょっと来い」と言われて「さっきしたばかりです」と言ったら「そういう意味じゃない」と怒られたり、身の危険を感じながらやってきました(笑)。でも、その頃からやはり自主性を持つてできることは何なんだろうと考えてましたね。

それと、父親が材木会社に勤めていたこともあって、地元で一生懸命汗を流しているのは誰なんだろうって考えていました。友人の親が農家をやっていたんですが、その頃はなぜか農業をしている方をちょっと違う目で見る雰囲気を感じられました。この町はこのままで大丈夫なんだろうかというような言われ方をしている、一生懸命働いている人たちがなぜちゃんと評価を受けないんだろうというのをおぼろげながら感じてい



ましたね。

それで、これはしっかり主体性を持って、この町で何ができるのかを自分たちで考えなければだめだなと思い、役場の試験を受けたんです。でも、二次試験の面接に行く途中、自分自身このままでいいのだろうかと考えました。何かというと、自分はこの地域をよく知っているのだろうかということです。遠軽町自体もまだあまり知らないのではないか。親に相談したら、だったらもうちょっと広く見たらいいんじゃないのかと言うので、進学することにしました。遠軽を離れるまではこんな経緯です。

## 産業文化をこの街から発信する

**高柳**：当時からスーパーぶりは発揮されていたんですね。もし遠軽の役場に入っていたら、僕なんか「ダメ上司、ダメ上司」であられたんじゃないかなと、一緒にならなくてよかったと、聞きながらちょっと思いましたけど。(笑)

若い頃からそういう思いで地域づくり、町おこしというものを考えておられたということは窺い知ることができましたが、小樽市に入ったのはどういうことがきっかけになったのか、その辺をお話し頂けますか。

**木村**：大学を卒業した時に、遠軽町を受験しようと思いましたら、採用は高校の新卒者 1 名だったんです。そ



れで親戚がいてよく遊びに行っていた小樽市に問い合わせると、大学卒を募集するというので受験しました。小樽の歴史的建造物や水族館に非常に関心を持っていたこともあって、その時には、産業文化を地域から発信する街づくりをしていきたいというのと、もう一つは、その地域の未来を担う子供たちをしっかりと育成して地元で愛着心を持てる人財に育てたいという2つのテーマを持っていて、これを小樽で実現したいという話を面接の時にも言ったんです。平成8年から経済部商工課に配属されて、ようやくこの2つのテーマが自分の本業になりました。

産業文化の面では、例えば一人親方で工房を開いている職人さんたちが「小樽職人の会」というのを作っておられたので、平成8年から職人展をやりました。まずは地元の皆さんに、それから全道の皆さんにと広げて、札幌ドームで北海道・東北職人展をやりましょうと仕掛けていきました。

最初は7人の職人さんが手伝ってくれて、3日間で1万5千人を超える方が来ました。2年目は市主催ではなくて実行委員会形式にしました。行政が段取りをし、こういう形で一緒にやりましょうと一度実践した後、今度は主体が皆さんたちになるという形もあっていったんです。同じことをするのでも、他の方が関わられる仕組みを作ることが大切だと考えています。

## 「人財」を育成し、定着させる

**高柳：**「地域活性の汗かき人」ということで様々な地域や大学で講演されていますね。北海道は元気がないと言われていますが、色々再生の種があると感じておられると思うんです。

**木村：**まさにそう考えています。例えば釧路地域の牡蛎。厚岸の牡蛎に比べて昆布森の牡蛎は殻が小さめなんです。でも、中身が大きくて蒸し牡蛎にすると非常においしい。生牡蛎1個90円、それをこれまでは獲ったらそのまま出荷していました。これだと関わる人が極めて少なくなりますね。そこに来る観光客の方々に提供することによってブランド化できるのではないかと。それによって関わっている人たちの所得をどう上げていくか。そこが非常に重要だと思っています。昆布森で漁業をしている方々は年収1千万円を超えていて、9割方がちゃんと後継者がいる。いわゆる事業構想力と事業継承力を付けるということを実現しているわけです。

その町で自分の子どもや孫がどうしたら暮らしているのか、大学と地域が連携して産業連関で客観的に



説明、分析することが重要です。地域資源をどのように有効活用するのか考えなければなりません。行政、商工会、漁協、金融機関など、そこに長く住んでいる方々がバラバラに動くんじゃなくて、情報を共有し、その地域にはどんな人財をどのように定着させ、どのようにインターンシップしていくかなどを考えなければだめなんです。

**高柳：**道内の雇用情勢は大変厳しいわけですが、一番懸念するのは、卒業した若者が地元で就職できなくて他地域へ流出するということです。人財の流出は地域や北海道の将来にとって非常に大きな損失だと思うんです。地域が活性化するのに必要な人づくりとは何か、示唆いただければと思います。

**木村：**私も地域活性化とは何かという物差しの中で2つ目に挙げているのが人財の育成と定着です。県立大学の学長に度々お会いします。県立大学は県の税金を使って運営されているんですが、7~8割の学生は他県から来ていて、4年過ぎると地元の子もほとんどがその県から出てしまう。まず1年生に入ったときから、地域で一生懸命汗を流している人たちや、そこを支えている産業に触れ合う、そこから芽生えた芸術文化に



触れ合う、そういう機会をつくるのが重要と言えます。地域ではなかなかつくりだしていません。入ってほしいと地元の企業は思っていますが、地元企業がどんな製品を作って、経営者がどんな展望を持っているのかを学生たちは全く知らない。大学の先生も知らない。

もう1つ言いますと、高校を卒業して地元企業に入りたいという学生がいたら、今度はその企業や地域が求めている人財を育てるために、高校と大学が連携して夏休みや冬休み時期に高大連携でプログラムを組むんです。そして、その企業に就職したとなれば、今度は8年実務経験を積みば大学院の修士課程の受験資格を得るという仕組みを作るんです。実際私も山形大学などで関わっています。高校卒業後はこういう事を用意していますよ、短大卒で入っても実務経験を積みばこういう形を用意している町なんですと、そういうことが人財が定着する大事な点なんです。

**高柳：**連合北海道で雇用キャンペーンをやったんですが、地元の就職率の高い高校は、早いうちからちゃんと企業訪問をさせて企業を知ってもらう努力をしているんです。そういうことをもっときちんと学校も地域もやらなければいけないと、今聞いていて本当に思い

ました。

**木村：**高校卒業の前にインターンシップで何カ所か回ってもらおうという仕組みをちゃんと作らないと、子供たちに酷ですよ。1カ所だけ行って、何となくいいかなというので入った、どうも違うって2~3カ月で辞める、そうなりますよね。何カ所か回って、そこで働いている人に会って話を聞いてもらうという形をとってあげないと。場を作ってあげて、後は自分で判断するというのが重要なんです。

## 「一生懸命」を評価し、残す

**高柳：**私たちの仕事もそうなんですけれど、苦しいとか辛いとか言っていたらなかなか前向きにならない。木村さんは“楽しい”を作り出す4つのアプローチを挙げていますね。「できないをできる!に変える」ポイントについてお聞かせ下さい。

### 『4つのアプローチ』

1. “経済的に安定したい” を実現する。
2. “仲間と共感したい” を実現する。
3. “正しく評価されたい” を実現する。
4. “理想に近づきたい” を実現する。

**木村：**地域活性化とは何ですかと言ったときに、1つ目は所得をしっかり安定させること。2つ目が地域の人財を育成して定着させること。3つ目に地域評価をしっかり作ること。地域で一生懸命汗を流している人たちが評価もされずに忘れ去られていくのでは困る。でないと、覚悟を持ってその地域に自分の子や孫を住ませるわけにはいかなくなります。4つ目に、女性や若手の皆さん、退職されたけれども働きたいという皆さんの活躍する場が用意されているのかということ。継続進化させるためには、一部の地域や一部の人たちがやるのではなくて、そこにどのように関わられる仕組みを作るかということです。5つ目には、その地域が何の産業をもって50年、100年先に向けて何を残せるのかということです。

この5つの物差しの中で「経済的に安定したい」「仲間と共感したい」「正しく評価されたい」「理想に近づきたい」ということを、“楽しい”を作り出す4つのアプローチと考えました。一緒にやるからには楽しくなきゃいけない。苦しくてやってられないっていうのは困るわけです。一緒にモチベーションを上げながらプラス思考でやっていく。人生一回きりなんですから、

どの時間を一緒に共有できるのかを真剣に考えようよといつも思っています。

NHKの「プロフェッショナル」でも紹介されましたが、炭焼きの父さんが私に会った途端に涙ぐんだんです。今まで役場にお願ひされ、一生懸命炭焼きを子供たちに体験させるということをずっとやり続けてきた。なのに本当にこれでいいのだろうかと本人は思っていたんです。一生懸命そこで汗を流してやっている人が、本当にこれでいいのだろうかって思っていることは、非常に問題なんです。今までやってくれたことをちゃんと正当に評価しないとだめなんです。そして、評価だけではなくて業を残さなければだめなんです。どうしてそこに関わった人たちが考えてあげないのか、ということなんです。

その町を支えている人は誰なのかっていうことをちゃんと評価しないで、誰がその町に覚悟を持って生きていけるのか。父さんに、あなたは素晴らしいことをしています、図書館にちゃんと収めましょうと言いました。

この間は、湖の環境を守るために、自分たちで環境活動を続け、廃油で石けんなどを作る活動を30年以上続けている女性をお伺いしたら、仲間の皆さん10数人が集まってくれたんです。話をお聞きした後に、大変でしたね、私がここに来させていただいたので、今までやっていただいたことは必ず残しますからという話をしたら、おばあちゃんが立ち上がってきて私に握手するんです。ようやっと報われたって言われて、もう涙ぐんでいるわけですよ。私も嬉しかったです。

地域で一生懸命やっている人がどうして評価されていないんだろう。そこを私は大切にしたいというのが本当の思いです。そういう人たちを大切に作る町を作り上げないと、どうして覚悟を持ってそこに生きていけるのか。小樽もそうですが、一生懸命工房をやらられる職人の皆さんが業を継承していかなければ、そのまま失われてしまうんです。私たちがしっかり支えていく、お手伝いしていくということが大事だと思っています。

## 「人財」を活かせる北海道に

**高柳**：全道に179の市町村があります。それぞれ地域の活性化に取り組んでいるんですが、地域のコーディネーター役として道庁の役割が非常に重要だと思うんです。例えばどういう役割を果たすべきか、少し示唆していただければ有り難いと思います。

**木村**：道庁の役割は非常に重要と考えています。各地



域の市町村で調整できない所を、一緒に場を作って、その中でどのようにやっていくか調整していくことが重要です。お互いに譲らなければいけないところも多分にありますが、それぞれが自分の町に住む人たちのことを考えていますから、ぶつかることもあるわけです。うちは医療問題が大事なんだという所もあれば、うちはそれよりも農業の立て直しをして後継者を育成することが一番最初なんだという所もあるでしょう。そこで北海道が発展するためには、まず最初に何をやらなければいけないかを議論してもらい、一緒になってやりましょうということ調整を含めて丁寧にやっていかないとはいけません。先ほどコーディネーター役と高柳会長が言われましたが、まさにそうです。

より広く見て北海道としてどうするのか、地域の意向を聞いてできるのは道庁です。コーディネーター、推進役が北海道としての大切な仕事の一つと考えます。14の総合振興局、振興局があるわけですから、しっかりと現場を見て、地域分析してもらおう。非常に細やかにできると考えます。

**高柳**：かつて道庁には2万人いましたけど、現在は1万6千人ぐらいです。若い人も採用されませんし、仕事も減っていません。職員の中には、こういう北海道を目指したいとか、地域をこうやって活性化させたいと

思っている人がたくさんいるはずなんです。ところがここ数年は、金が無いの一言で事業をあまりやらせない。いかに効率的に人を減らすか、要するに縮小型で、視点が地域に向いていない可能性があるんです。ここをなんとか変えていかないと、道庁は道民のためにも自治体のためにもならなくなる。

国と基礎自治体との間にあって、大事な役割を担うべきところが担われていない面があるのではないかと思うんです。そこをダイナミックに変えるのは、首長にしかできないんです。やっぱりリーダーがそのことに気付いて変えていかないといけない。その意味で、道庁を変えるには、私たちはリーダーを変えるしかないと思っています。

**木村：**私は、職員給与については一律カットでなく慎重に考えるべきと思っています。人件費削減や職員数の減は、政策と言うより事務方でもできることと言えます。こういう人財を今のうちにこのくらい入れていくんだというのが人事戦略であり、将来の産業等を見通した考え方なんです。それができなければ将来がとても不安と言えます。このことをやりたいという思いで道庁に入った人が多いと思うんです。そういう人財を活かすような組織にすることが大切と考えます。

## 北海道を「できる!」に変える

**高柳：**地域活性化ということ言えば、北海道の場合、政令市の札幌とそれ以外ということになりますよね。僕はいつもダブルスタンダードではないかとよく言うのだけれども、政令市と他の市町村の地域活性化は違うんじゃないのかなと思う。札幌も全道のためにきちんと協調してやっていかなければならないと。政令市と他市町村の結びつきをうまくやっていくためにどうしたらいいのかお聞かせください。

**木村：**京都府の南山城村で基調講演をした際に、その後のパネルディスカッションを山田京都府知事とご一緒しました。その際、山田知事は連携の重要性を成功体験の共有と力説されていました。京都府は京都市あつての京都府なんです、京都市は政令市だから、京都市長の下で独自でやります。京都府はそれ以外を思う存分おやりくださいと言われてたら、どういうことになるでしょう。北海道で札幌市以外を知事さんどうぞおやりくださいと言われてたら、地域として成り立たないですよ。札幌をどう見るのかということです。情報も集中し、医療体制も充実している。商圈もある。そうすると、たとえば商談など、以前は各地で行っていたものが今

は札幌だけで完結してしまってます。地域の人によっぽど敏感に察知しながらやらないと、札幌との関連付けができなくなります。道央圏には約 350 万人住んでいます、そこを商圈に商品をつくったり、ブランド化したいと思ったときに、関連付ける場がないと、札幌は札幌、地域は地域となってしまうんです。

長野市では地域アドバイザーを派遣し、まちなかと中山間地域を結びつけています。山口県周南市では臨時職員を雇って中山間地に入れ、パイプ役となるよう検討しています。こういうことを北海道でもやらないと、各地域がバラバラに動いている状況が発生する。これが問題で、札幌や小樽などに観光客が来ているのに、そこに関われないということはもったいないんです。お互いに情報を共有する場を作っておくことが大切なんです。

**上島：**北海道は「試される大地」というキャッチフレーズを付けられて、ずっと崖っぷちみたいな所に立たされてきたんですが、これからは「できないをできる!」に変える」をキャッチフレーズに、非常に前向きなリーダーに登場していただいて北海道を引っ張って頂きたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。



お年玉プレゼント!  
**れんごうMONTHLY**  
**新春パズル**

正解者の中から抽選で**クオカード(1,000円分)**を**20名様**にプレゼント!

《応募方法》「新春パズル」と明記し、パズルの答えとともに以下の点をお書き添えの上、官製ハガキか連合北海道ホームページ上からE-mailでご応募ください。  
 【お名前・ご住所・電話番号・所属組合名】  
<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/> ◎応募締切:2011年2月15日着まで

答え

1	2	3	4	5	6
7		8		9	
10			11		
12		13			
	14		15	16	
	17		18	19	
20		21			
22				23	

■白マスの文字を並べると、お正月にちなんだ言葉に一。

【タテのカギ】

- 1.しめ縄や門松を飾っておく期間
- 2.アメリカ生まれの丈夫なズボン
- 3.この授業のときに実験しました
- 4.祖先や子孫の名前などを記録したもの
- 5.初詣で神様に 夜空を見上げて星に
- 6.どこにも行かず三が日
- 9.弱々しい様子
- 13.卵に入っている
- 14.専門的な技術や知識
- 16.「ライフ...」「...がいいね」
- 17.箱根駅伝の初日
- 18.頭を下げて礼をすること
- 20.これがあるうちは旨い
- 21.たいは緑色をしています

【ヨコのカギ】

- 1.イタリア製の陶器 地中海の島の名
- 5.秀吉の正室 北政所
- 7.・・・言えばカー
- 8.温泉好きの人はこれにこだわります
- 10.性格がのんびりしている様子
- 11.ついに 「・・・決戦の日」
- 12.鳴門の海にはこれが発生します
- 13.人と人をつなぐ 「固い・・・」
- 14.奥さんのほうが大きいのは「・・・の夫婦」
- 15.よりどころ 頼りにするところ
- 17.キング
- 19.来年の干支
- 20.赤と白に分かれて戦います
- 22.日本神話に出てきます 今年忙しいかも
- 23.亭主は元気でこのほうがいい



◆◆◆◆「あなたの今年はどうなる?」 12星座で運勢を占います。◆◆◆◆

2011年  
12星座占い

おひつじ座(3/21~4/19)

案ずるより生むがやすし、と言う年です。最初は大変でも、やってみると案外スムーズに進みます。

おうし座(4/20~5/20)

雑音に悩まされそうな年。外野の意見に振り回されないようにすることが大事です。自分の意見を強く持ちましょう。

ふたご座(5/21~6/21)

後半から運勢は急上昇。来年も持続します。好機を逃さないためにも、前半で自分の目標を見定めることが大切。

かに座(6/22~7/22)

今年は新しいことに挑戦するよりも、今のスタイルを守ることが先決。自分の特技を伸ばしましょう。

しし座(7/23~8/22)

今年の対人運は上昇機運です。同性・異性を問わず、困った時にあなたに味方してくれる人が登場するかも。

おとめ座(8/23~9/22)

しんどい年になりそうですが、やりがいはある年です。現実的センスを生かして行動していくようにしましょう。

てんびん座(9/23~10/23)

変化を求める気持ちが強くなる年。勇気をもって行動することが大事です。でも感情に溺れて早まらないように。

さそり座(10/24~11/21)

今年の運勢は徐々に上昇しますが、単独行動よりも、周囲とのチームワークがツキを呼びそうです。

いて座(11/22~12/21)

飛躍の年です。特に前半に新しいことを始めるのが吉。援助もあり、意外な応援者が現れるかもしれません。

やぎ座(12/22~1/19)

今年の成功のカギは人間関係にあるようです。譲る気持ちがあれば、物事がスムーズに運びます。

みずがめ座(1/20~2/18)

今年はじっと我慢の年です。大きな行動は控えめにしたほうが吉。インターネットなどで情報収集を。

うお座(2/19~3/20)

幸運の年です。少々強引でも、やりたいことに突き進めば間違いなし。ただし、あくまでも計画性をもって。

いっぱい使ってネ!



「ゆにぼん」は連合北海道の組合員とその家族の福利厚生を目的に制作され、制作には組合費を一切使っておりません。掲載されている施設からの掲載料で作成されています。

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

**ふれ愛バンク ろうきん**  
**北海道労働金庫**  
 理事長 渡部俊弘  
 〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目 TEL.(011)271-2101

選ぶ安心。充実プラン。  
**新こくみん共済**  
**マイカー共済**  
**全労済** 北海道  
 北海道労働者共済生活協同組合  
 〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目 1-3 TEL.(011)241-3511

住まいのご相談は  
住宅生協へ  
**北海道住宅生協**  
 理事長 武田伸一  
 〒060-0034 札幌市中央区北4条東2丁目 TEL.(011)221-3354

働く人の健康を守ります。  
**札幌緑愛病院**  
 北海道医療生活協同組合  
 理事長 鈴木 豊  
 〒004-0861 札幌市清田区北野1条1丁目 TEL.(011)883-0121

**北海道労働者福祉協議会**  
 理事長 渡部俊弘  
 〒060-0004 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろうビル5F TEL.(011)251-7560